

巻頭言

ヘルスケア分野における課題の克服がもたらす 日本の機会と強み

慶應義塾大学

中村 洋

医療経済学は、活力のある高齢化社会の構築に向けた貢献が求められている。現在、日本は人口減少と高齢化に同時に直面しており、多くの課題を抱えている。一方で、課題を克服すれば大きな機会を獲得できるとともに、世界に比べた日本の強みに転化することも可能である。以下では、ヘルスケア分野における課題のいくつかを挙げ、それらの克服が日本に機会と強みをもたらす可能性について言及したい。

生産年齢人口の減少と省力化技術の活用 人口の減少（特に、生産年齢人口の減少）は日本における生産力を低下させかねない。すでに、（業種や地域によっては）人手不足が指摘されている。国際比較でも、日本における失業率は総じて低く、特に15歳から24歳の若年層の失業率は顕著に低い。一方で、人手不足であれば、社会が省力化投資を受け入れやすい。省力化投資が進めば、一人当たりの生産性の向上にも寄与するとともに、高齢者にとって働きやすい労働環境の整備につながる。

高齢化の進展と高齢者向け商品・サービスの進化 高齢化が進むと経済が停滞すると結論付けることは早計である。例えば、高齢者人口の増加により、高齢者向けの商品・サービスへの需要は今後高まりうる。そこで、高齢者向け商品・サービスを進化させ、世界にない差別化した商品・サービスを開発することが求められている。開発できれば、日本のみならず、日本を追いように高齢化が進む他国においても、当該商品・サービスの市場を拡大させることができる。

例えば、有効で効果的な医療・介護ノウハウ、認知症など重篤な疾病に対する科学的根拠に基づいた疾病予防（医療保険外でも）などを海外に展開できれば、世界における高齢化の対応にも貢献しうる。また、数多くの高齢者から正確なデータをとることで、AIの有効的な活用にも結びつく（いくらデータがあっても正確なデータでなければ、AIはその効果を十分に発揮できない）。

医療費高騰とコスト削減 一人当たりの医療費が高い高齢者の増加により、医療費の高騰が課題となっている。そこで、着目されるのは、費用対効果に優れた医薬品や医療機器の研究開発である。例えば、中分子医薬品は今後有望な研究開発の分野の一つであろうし、再生医療の分野も代替テクノロジーの開発やオペレーション改善で、低コスト化が期待される。

これらは例に過ぎないが、ヘルスケア分野における課題の克服が日本に機会と強みをもたらさうという観点から、医療経済学が政策立案や統計分析等による事実把握を通じて果たさう役割は大きい。